

新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）の効果検証について(案)

交付対象事業の名称	区分	事業内容	交付期間	実施内容						本事業における重要業績評価指標（KPI）															自己評価		今後の方針			
				R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	指標	1年目			2年目			3年目			4年目			5年目			事業の評価	評価理由	今後の方針	今後の方針の理由		
										目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況						
(1)自動運転バス導入検討プロジェクト	第2世代交付金	名古屋市中心部の基幹的な公共交通として機能しているガイドウェイバス志段味線（愛称：ゆとりーとライン）は、車両の前後輪に取り付けられた案内装置の誘導で走る仕組み（ガイドウェイバスシステム）となっており、高架部では案内装置がレールの内側に沿って正確に進行することから、ハンドル操作が不要な軌道系交通システムであり、運行開始から20年以上の実績を有しているが、本市以外にガイドウェイバスシステムの導入都市がなく、交通システムの継続が困難な状況となっている。本事業では、このガイドウェイバスシステムから自動運転バスに転換するために必要な技術面や法制度への整合化について検討していくものである。この取組は、特殊な機械装置に依存する本市にのみ適用できるシステムではなく、どこにでも展開できる汎用的なデジタル基盤を構築することを目指す。	R4～R8年度	自動運転バス導入計画の策定 （1）システム全体に関する検討： ・安全性に関する評価 本市の現行のガイドウェイバスシステムは、路線バスに機械装置を取り付けて、レールに誘導されてハンドル操作が自動化されており、一般的な道路に比べてやや狭い空間を走っている。これを自動運転バスに転換している信頼性と安全性を自動運転技術により代替させることになるため、システム全体の安全性の目標を設定し、この目標を達成するための技術的な解決策について検討した。 （2）機能・性能要件の検討： ・機能・性能要件の検討 自動運転技術の開発に伴って、自動運転バスに必要となる機能や性能の要件や、2年目の実験走行時に重点的に検証する必要がある項目について検討した。 ・普及啓発 市公式ウェブサイトを活用し、検討内容や実験についての情報発信を行った。	実験走行及び実験結果の評価及び普及啓発 （1）重点項目を中心とした実験走行及び実験結果の評価 ・自動運転技術では①自車の位置を推定し、②①の結果を使い事前に設定した走行軌跡をトレースするために必要なアクセル・ブレーキの操作量を計算し、③自車が移動するという、サイクルを繰り返している。令和5年度は①に重点を置いて、複数の自車の位置推定の方式を使って比較する実験を実施した。 実験走行は、国総研の試験走行路にゆとりーとライン高架区間の曲線部を模擬的に再現し、受注者から借用した自動運転バスを走行させて運転精度に関するデータを取得し評価した結果、自車位置の推定は高い精度が出ていたが、③の移動結果については、いずれの方法も目標軌跡に対して少なくないブレが生じていることが判明した。このため、運用環境に即した専用の車両を用意して②を作りこむ必要があることを認識した。	仕様設計の作成 ガイドウェイバス高架をバス専用道に改修した空間を走行する自動運転バスにガイドウェイバスと同等の機能を持たせるにはどのような機能・性能の要件が必要かについて、自動運転システム開発企業や、現行の運行事業者、学識経験者、中立的な第三者機関などの協力を得て検討を進め、仕様設計をとりまとめた。 ガイドウェイバス高架軌道の自車位置推定の実験 ガイドウェイバス高架上で、自動運転車が自車の位置を推定する手法はどの手法がもっとも適しているか調べるために、複数の自己位置推定方法を搭載したガイドウェイバス軌道内を最高速度60kmで走行できるガイドウェイバス作業車を走行させて、データを比較検証した。 この結果、ガイドウェイバス高架上では自動運転車に広く使われているLiDAR（レーザー測距器）を使う方式や衛星測位システムよりも、地上に据えた磁気マーカーを磁気センサーで読み取る方式のほうが適していることを確認し、仕様設計に反映させた。	自動運転バスを活用した公共交通システム事業化のための詳細検討 ・自動運転バスを活用した公共交通システムに関する、車両技術・地上に設置する装置・運用に従事する人のそれぞれの役割と責任を明確化し、安全で安定して運行できる公共交通システムの全体像を作成した。 この業務にはプロジェクトマネジメントを行う人材を充てることを求め、自動運転社会実装プロジェクト全体の推進を図った。	① 本事業に関わったデジタル人材の人数	15	19	目標値を達成	10	13	目標値を達成	10	11	目標値を達成	10	11	目標値を達成	10						地方創生に相当程度効果があった（一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合）	本補助事業を2年間延長して公共交通システムの全体設計を行うために、自動車の自動運転とは異なる分野の鉄道システムの開発企業と公的な評価機関の2者の検討パートナー（デジタル人材）の協力を得て検討を進めた。新しい検討パートナーからは、従来の検討において不十分であった、自動運転システムに不具合がある場合で、不具合の解消方法や、輸送を継続する方策の必要性について検討した。	事業の継続（計画どおり事業を継続する）	令和8年度も引き続いて本交付金事業を実施し、事業計画どおり公共交通システムの全体設計を行い、5年間の事業計画を終了させることとする。
									② 普及啓発ウェブサイト閲覧回数	0	0	—	3,500	1,848	目標値の5割以上達成	4,000	6,108	目標値を達成	4,000	3,426	目標値の7割以上達成	4,000								
									③ ゆとりーとライン沿線の小学校区の人口※増加人数	640	2,078	目標値を達成	640	442	目標値の5割以上達成	640	166	目標値の達成は5割未満	640	147	目標値の達成は5割未満	640								
									④ 本プロジェクトのリーダーとして従事するデジタル人材の人数	0	0	—	0	0	—	0	0	—	1	1	目標値を達成	1								

↑令和7年度

目標値を達成
目標値の7割以上達成
目標値の5割以上達成
目標値の達成は5割未満
—

地方創生に非常に効果的であった（全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合）
地方創生に相当程度効果があった（一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合）
地方創生に効果があった（KPI達成状況が芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が改善・前進したとみなせる場合）
地方創生に対して効果がなかった（KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えない場合）

事業の継続（計画どおりに事業を継続する）
事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる）
事業の改善（事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う（または行った））
事業の中止（継続的な事業実施を予定していたが中止する（または、した））
事業の終了（当初予定通り事業を終了する（した））

新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）の効果検証について(案)

交付対象事業の名称	区分	事業内容	交付期間	実施内容					本事業における重要業績評価指標（KPI）															自己評価		今後の方針			
									指標			1年目			2年目			3年目			4年目			5年目			事業の評価	評価理由	今後の方針
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況			
(2)外国企業誘致促進によるビジネスイノベーション加速化事業	第2世代交付金	前身事業である「スタートアップ海外展開及び海外スタートアップ協業促進によるビジネスイノベーション加速化事業」を深化・高度化させ、名古屋市、愛知県、県市中小企業支援機関にさらに地域の大学を構成員として加えた支援体制（コンソーシアム）を組織し、当地域への進出を検討する外国企業等に対し、進出を促進する支援を行う。さらに、外国企業の進出を加速するとともに地域企業等のオープンイノベーションを促進するため、当地域の企業に加え、大学や研究機関とのマッチング等の場を提供することで、当地域の経済力や魅力向上を図っていく。	R5～R9年度	・相談窓口の設置 ・オンラインセミナーの開催 ・進出有望な外国企業等の伴走支援、招へい（メンタリング、ビジネス講座、国内展示会視察、ビッチイベントへの参加等マッチング支援） ・マッチング支援（オンライン商談会の設置）	・相談窓口の設置 ・オンラインセミナーの開催 ・進出有望な外国企業等の伴走支援、招へい（メンタリング、ビジネス講座、国内展示会視察、ビッチイベントへの参加等マッチング支援） ・マッチング支援（オンライン商談会の設置）	・相談窓口の設置 ・オンラインセミナーの開催 ・進出有望な外国企業等の伴走支援、招へい（メンタリング、ビジネス講座、国内展示会視察、ビッチイベントへの参加等マッチング支援） ・マッチング支援（オンライン商談会の設置）			① 当事業を通じて愛知県・名古屋市へ進出した外国企業等の進出件数	4	0	目標値の達成は5割未満	4	0	目標値の達成は5割未満	4	4	目標値を達成	4				4			地方創生に非常に効果的であった（全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合）	全ての項目のKPIについて目標を上回る実績を上げており、愛知県・名古屋市への外国企業誘致を促進することが出来た。	事業の継続（計画とおりに事業を継続する）	予定通り事業を完了した。交付期間を延長の上、引き続き愛知県等関係機関と連携して伴走支援や当地域ものづくり企業等とのマッチング等を着実に実施し、企業誘致に繋げていく。
② 当事業を通じて愛知県・名古屋市への進出意向が高まった外国企業等の数	4	6	目標値を達成	6	6	目標値を達成	8	24	目標値を達成	10				12															
③ セミナー及び商談会への参加者数	90	98	目標値を達成	120	425	目標値を達成	150	797	目標値を達成	165				180															
④ 外国企業誘致ウェブページ(県・市)の総閲覧数	2,400	3,775	目標値を達成	3,600	4,274	目標値を達成	4,800	7,647	目標値を達成	5,200				5,600															

↑ 令和7年度

新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）の効果検証について(案)

交付対象事業の名称	区分	事業内容	交付期間	実施内容			本事業における重要業績評価指標（KPI）									自己評価		今後の方針			
							指標		1年目			2年目			3年目			事業の評価	評価理由	今後の方針	今後の方針の理由
				R7年度	R8年度	R9年度			目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況				
(3)産学官連携による「学生が集まり、活躍できるまちづくりプロジェクト」	第2世代交付金	少子化による18歳人口の減少を踏まえ、学生を圏域内外から呼び込むため、大学への進学を検討している高校生やその家族、関係者を対象として、圏域の大学情報や地域の魅力を一元的に発信していく「大学魅力発信ウェブサイト」を制作するとともに、インターネット広告やイベントの実施を通じて、制作したウェブサイトを効果的に発信していく。 学生が主体的に行政、大学、企業などと連携して社会課題の解決やまちづくりに取り組むことができるように、学生と行政等をつなぐ「学生連携プラットフォーム」の仕組みを導入し、産学官金言の多様なステークホルダーが参画する学生主体のコミュニティを醸成する。	R7～R9年度	・大学魅力発信事業 ・学生連携プラットフォームの運営			①	市内における大学・短期大学の学生数	0	846	目標値を達成	182			182			地方創生に非常に効果的であった（全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合）	全て目標を達成しており、大学や学生生活の魅力発信、ならびに学生を中心とした連携の創出により、若者が明るい未来を思い描き、生き生きと活躍できる都市の実現に一定程度の成果があったため。	事業の継続（計画どおりに事業を継続する）	予定どおり事業を完了した。2年目以降も学生・大学・企業・行政等が連携した成功事例を継続的に積み上げることで、圏域の大学や学生生活の魅力をより具体的に示し、全国の学生から選ばれるまちづくりに向けて引き続き事業を推進していく。
②	プラットフォームでの連携事業数(年間)	6	11				目標値を達成	6			12										
③	ウェブサイトのアクセス数(月平均)	300	4,358				目標値を達成	600			900										
(4)愛知の特色を活かした人の流れ創出事業	第2世代交付金	「愛知・名古屋2026」の開催を契機として、人口増加が著しく、今後さらなる市場拡大が見込まれるアジア圏からの誘客を促進する。外国人旅行者が宗教上の制約にかかわらず安心して観光を楽しめるよう、宿泊施設を対象に、食の多様性に配慮した飲食提供に関する研修等を実施する。また、メタバース空間を活用し、選手やチーム役員が国や地域を越えて交流できる「選手間交流事業」を展開する。こうした取組を通じて愛知県の多様な魅力を国内外に発信し、県の知名度向上を図るとともに、日本人・外国人を問わず、進学や就職など居住地の選択を控えた若年層に対して本県の魅力を伝え、若年層の流入促進及び転出抑制につなげる。さらに、市町村や民間事業者と連携し、県内における滞在満足度と滞在時間の向上を図ることで、国内外から継続的な人の流れを創出する。加えて、愛知県が調査した戦争遺跡を地域固有の歴史的資源として活用したバスツアーを実施し、地域の認知度向上と周遊型観光コンテンツの基盤整備を図る。	R7～R9年度	・ムスリム対応ポリシー及びマニュアルの監修、作成 ・選手宿泊施設等の飲食提供担当者等に向けたムスリム対応についての研修を実施 ・ムスリム対応の説明用映像の作成 ・選手等交流用メタバース空間の事業実施に向け、委託事業者の選定、メタバース空間の構築、運用テストの実施			①	外国人延べ宿泊者数	35,000	954,500	目標値を達成	789,000			0			地方創生に非常に効果的であった（全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合）	KPIについて目標を上回る実績を上げており、実施事業に成果があったため。	事業の継続（計画どおりに事業を継続する）	・ムスリム対応研修を受講した施設側からの質問事項等に対応するフォローアップ体制を構築し対応するとともに、食材の調達や運営方法について助言、支援を実施 ・選手等交流用メタバース空間の運営
②	「愛知発酵食めぐり（協議会運営サイト）」の外国人アクティブユーザー数	1,920	集計中				—	1,440			2,160										
③	外部人材の交流支援数	5	集計中				—	5			5										
④	県内大学等を卒業した留学生の国内就職率	1.5	集計中				—	1.5			1.5										
⑤	「愛知県移住・定住ポータルサイト」の年間PV数	1,132	集計中				—	2,265			3,398										
⑥	戦争遺跡を巡るバスツアーの参加者数	0	集計中				—	15			25										

↑令和7年度

交付対象事業の名称	区分	事業内容	交付期間	実施内容			本事業における重要業績評価指標（KPI）									自己評価		今後の方針			
							指標			1年目			2年目			3年目			事業の評価	評価理由	今後の方針
				R7年度	R8年度	R9年度				目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況			
(5)海外スタートアップ等を軸にした産業競争力強化事業	第2世代交付金	当地域とビジネス的に親和性が高い国・地域を調査し、日本でのビジネス展開に関心のあるスタートアップの掘り起こしを行う。また、それらのスタートアップが効率的に当地域の事業会社と接点を持つことができるよう、ブース展示の機会を提供し、さらに当地域を中心とした事業会社とのマッチング・商談会を行う。 加えて、海外展開を志向する当地域の有望なスタートアップ群を対象としたピッチコンテストを実施する。	R7～R9年度	・海外スタートアップの日本進出のサポートを目的として、連携強化国を3か国（インド/シンガポール/韓国）設定し、現地コーディネーターを配置 ・国内外のスタートアップが一堂に会し効率的な商談が実施できるように、「企業展示」「商談会」を実施 ・日本市場に進出意欲のある海外スタートアップ、海外市場に進出意欲のある国内スタートアップを対象に、グローバルな成長を支援するためのピッチコンテストを実施			①	地域における起業者数（スタートアップの起業数及び進出企業数）	70	132	目標値を達成	100			130			地方創生に非常に効果的であった（全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合）	全てのKPIについて目標値を上回って達成した。海外スタートアップの参加や企業展示・商談会の実施により、スタートアップと事業会社との商談・提携機会が創出されるとともに、海外スタートアップの当地域への進出促進や、地域スタートアップの海外展開支援につながるなど、本事業は地方創生に非常に効果的であった。	事業の継続（計画どおりに事業を継続する）	初年度は目標を上回る成果を上げており、事業2年目以降も引き続き海外スタートアップとのネットワーク形成や企業間マッチング機会の充実を図りながら、当地域におけるスタートアップ・エコシステムの強化及び海外とのビジネス交流の拡大に向けて、計画どおり事業を推進していく。
②	ビジネスマッチング等の支援事業を通じて、スタートアップと事業会社等との間に新たに結ばれた取引・提携件数	10	49				目標値を達成	15			20										
③	支援事業を活用して行われたスタートアップと事業会社等との商談（ビジネスマッチング）件数	100	262				目標値を達成	120			140										
④	本事業に参加した企業数	50	175				目標値を達成	60			70										
⑤	本事業に参加した企業が登記している国数	3	16				目標値を達成	3			3										
⑥	連携強化国からの本事業参加者数	50	63				目標値を達成	60			70										
(6)「選ばれる愛知」を目指す拠点機能強化事業	第2世代交付金	県内各所に点在する公の施設が抱える多様な課題を同時並行的に解決し、将来像の実現を図るため、既存施設を補完する拡充施設として、各施設の利活用目的に応じて柔軟な運用が可能なユニットハウス・ムービングハウスを整備する。	R7～R8年度	令和8年3月31日に新たな収蔵展示施設の設置が完了した			①	地域の人口	0	0	目標値を達成	-17,798			-17,798			—	令和8年3月31日に新たな収蔵展示施設の設置が完了したが、令和7年度については本施設によるKPIへの波及効果は計測できないため。	事業の継続（計画どおりに事業を継続する）	西の丸御蔵城宝館の入館者数の増に向け、新たに設置した収蔵展示施設の活用に取り組む。
							②	観光入込客数	0	0	目標値を達成	3,270			3,270						
							③	年間利用者数	0	0	目標値を達成	-48,827			247,643						
							④	年間利用料収入	0	0	目標値を達成	360			360						
							⑤	イベント等開催数	0	0	目標値を達成	61			40						

↑ 令和7年度

交付対象事業の名称	区分	事業内容	交付期間	実施内容			本事業における重要業績評価指標（KPI）									自己評価		今後の方針			
							指標	1年目			2年目			3年目			事業の評価	評価理由	今後の方針	今後の方針の理由	
				R7年度	R8年度	R9年度		目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況	目標	実績	達成状況					
(7)地域と連携した防災活動を通じて実現する「全ての市民が安心して暮らせるまちづくり」プロジェクト	第2世代 交付金	トイレカーを購入し、地域の防災訓練等で継続的に展示・啓発を行うことで、市民に対して防災意識を啓発する。また、災害時には快適トイレとして使用し、他自治体が被災した際には被災自治体への支援に活用する。	R7～R9 年度	・トイレカーの導入準備をする とともに、活用方法を検討			①	地域の人口（若い世代（0～24歳）の転入超過数）	—	—	—	-1,084			353			—	—	事業の継続（計画どおりに事業を継続する）	事業1年目は予定どおり完了した。今後は地域の防災訓練等で継続的に展示・啓発を行うことで、市民に対して防災意識を啓発する。
							②	地域の防災活動に参加している市民の割合	—	—	—	1			1						
							③	市民を対象とした訓練・防災啓発イベントの実施件数	—	—	—	11			5						
							④	市民を対象とした訓練・防災啓発イベントの参加者数	—	—	—	3,950			2,500						
							⑤	アジア・アジアパラ競技大会での防災啓発イベントの実施件数	—	—	—	3			0						
							⑥	アジア・アジアパラ競技大会での防災啓発イベントの参加者数	—	—	—	1,000			0						

↑ 令和7年度